

ようこそ、セルフ

建築のプロでも何でもない普通の素人が、建物をセルフビルドしてみる……。

いまのニッポンでは夢のような話かも知れないが、その夢を実現させた人はたくさんいる。

そして現在のセルフビルドは、個人でも楽しく建てられる小規模な家＝小屋作りが大人気だ。

本書では、3日で作れるシンプルな小屋から、実際に暮らせるちょっと大きめの小屋まで、

素人がセルフビルドするためのノウハウをたっぷりご紹介していく。

さあ、世界にひとつだけの建物を作る人生最高のプロジェクトを体験してみよう！

背景の写真は、わが家の敷地内の風景。左の小屋が、掘っ立てスタイルで自作したガレージ兼工房。中央奥はログハウス風の木の家。これも、仲間や家族と手作りしたものだ。右はハーフビルドした「1.5階」の自宅。小屋作りのノウハウを活かして、基礎作りの手伝いや壁の内外装工事、デッキ作りなどを自分たちで楽しんだ。



ビルドの世界へ!





ツーバイ構法なら 子供でも楽しめる!

これは、我が家の裏庭で3畳の小屋を作っているところ。子供たちにも作業を手伝ってもらったが、まるでプラモデルを作るような感覚だから、結構楽しそうに作業してくれた。この程度のサイズの小屋なら、のんびり作業しても1週間、早ければ3日間で作ることができる。➡第1章(16ページ)

「ツーバイ構法」なら素人でも簡単!

建物を作る方法にはいろいろなスタイルがあって、作りやすさもピンキリだ。それらのなかで、小屋作りを楽しむセルフビルダーたちからダントツの人気なのが、2×4（ツーバイフォー）材と合板を主な材料とする「ツーバイ構法」。材料の加工がとても簡単で、構造や組み立て方も理解しやすいから、セルフビルドが初めての素人でも、ぶっつけ本番で小屋を建てられるほどなのだ!!



知識や腕力がなくても 作業に参加できる!

ツーバイ構法の作業の基本は、材料を丸ノコでカットしてビスで留めていただく。なので、素人でも、腕力がなくても、みんなで楽しみながら作業できる。家族や仲間同士でセルフビルドするには、ピッタリのスタイルと言えるだろう。



簡単な作り方で 建物の強度を確保できる!

写真は、動く小屋=モバイルハウスのセルフビルド風景。作業に参加したのは全員素人だったが、床も壁もすべてモノコック構造となるので、車輪で移動させてもびくともしない頑丈な小屋を作ることができた。使用材料もホームセンターで全部買えるから、手軽にセルフビルドを楽しむならツーバイ構法が一番だ。

→第1章 (52 ページ)



ツーバイ構法だから、
ホームセンターで買える材料だけで
どんな小屋でも作れるぞ!

アレンジ的な作り方にも 対応してくれる!

写真左は、パネルとトラスを駆使した小屋 →第1章 (34 ページ)。下は、外壁に焼きスギを張り、「くぐり戸」を設けた和風の小屋。→第1章 (48 ページ)。右は、スギ丸太をツーバイ枠に組み込んだハイブリッドの小屋 →第1章 (60 ページ)。軸組み構法ほどではないが、ツーバイ構法でもそれなりのアレンジを楽しめるのだ!



struction



さまざまなバリエーションを楽しめる!

軸組み構法の最大のメリットは、自由自在のプランを楽しめること。建物の強度さえ確保できれば、アイデア次第でかなり楽しい小屋を作ることにも可能だ。わが家でも、丸太を使ったピーセンピース→第5章(161ページ)、間伐材を使った掘っ立てスタイルの小屋→第3章(97ページ)などを作ったが、いずれも軸組み構法ならではの自由度の高さを実感できた。

「軸組み構法」にチャレンジしよう!

建物の柱や梁などを「ホゾ」で組み合わせていく、日本伝統の建築スタイルが「軸組み構法」。複雑な木組みは少々難しいが、シンプルな構造にすれば素人のセルフビルドでも十分に建てられる。間取りの自由度が高く、さまざまな材料を自分の好みで選べることも大きなメリットだ。本書では、通常の角材を使った方法はもちろん、丸太や間伐材で作るスタイルもご紹介していく。

ホゾの加工が最高に楽しい!

一見、素人では加工するのが困難そうな「ホゾ」。しかし、この作業にはコツがあって、丸ノコや電気ドリルなどを併用すれば、誰でも意外と簡単にホゾを作ることができる。自分が頑張って刻んだホゾが、ピッタリとはまったときの感激は格別。応用力のある軸組み構法をマスターしてしまえば、たいがいの建物は自分で作れる自信がつくことだろう。→第2章(71ページ)



Timber

スモールハウス作りは、人生最高の遊びだ!



日本の風土や気候にマッチした
建築スタイルだから、
セルフビルドでも安心して作業できる!

マイペースで小屋作りを楽しめる!

軸組み構法では、すべての材料を自分の都合のいい作業場所とスケジュールで加工できることも大きなメリット。晴れ間を狙って一気に棟上げをして、屋根までかけてしまえば、雨の心配をすることなく作業を楽しめるのも利点だ。まさに、日本の伝統が生み出した、風土や気候に適った建築スタイルと言えるだろう。



frame



「ログハウス＝丸太小屋」の セルフビルドも大人気だぞ！

ログハウスの構造体はとても強度が高く、耐震性や耐風性にも優れているのが特徴だ。また、ログ材自体がもつ断熱性や調湿性、そして木の雰囲気がつぶりの空間も魅力といえる。ログ材を横積みにしていくだけで、だれでも簡単に頑丈な壁を作ることができるので、週末セルフビルダーにとっては、もっとも入門しやすい建物のひとつと言えるだろう。

丸太を積んでいくだけで小屋が建つ！

ログハウスの構造はとてもシンプルで、ログ材（丸太や角材）を横に積みながら壁を形成していくだけ。この作業が素人でも直感的に理解しやすく、しかも丈夫な建物を作れることからセルフビルダーからの絶大な人気を得ているわけだ。また、ハンドカットの場合は丸太を「チェーンソー」で加工していくという非日常的な作業も、ログハウスを手作りする魅力のひとつになっている。

➡第4章（135ページ）



丸太との充実した会話を楽しめる!

山から伐り出してきたそのままの原木と製材された木材との大きな違いは、その生命感や存在感をリアルに感じることができるかどうかだ。丸太の場合、まさに1本1本の生命とじっくりと会話をしながら作業していくことになる。人生において、これほど濃密で貴重な体験ができるのは、実際にセルフビルドに挑戦した人だけの特権だろう。



「ハンドカット」と「マシンカット」。
自分の好みや予算、スケジュールを考えて
夢の丸太小屋を実現してみよう!



「マシンカット」なら初心者も楽勝!

時間や労力に制約があるなら、工場でプレカットされたログ材を利用する「マシンカット」でセルフビルドするのもお勧めだ。これならチェーンソーは一切無用だし、必要最小限の道具だけでログハウスを建てることができる。小屋程度の建物なら、わずか1日で屋根まで仕上げることも可能だ!

➡第4章(153ページ)



log cabin



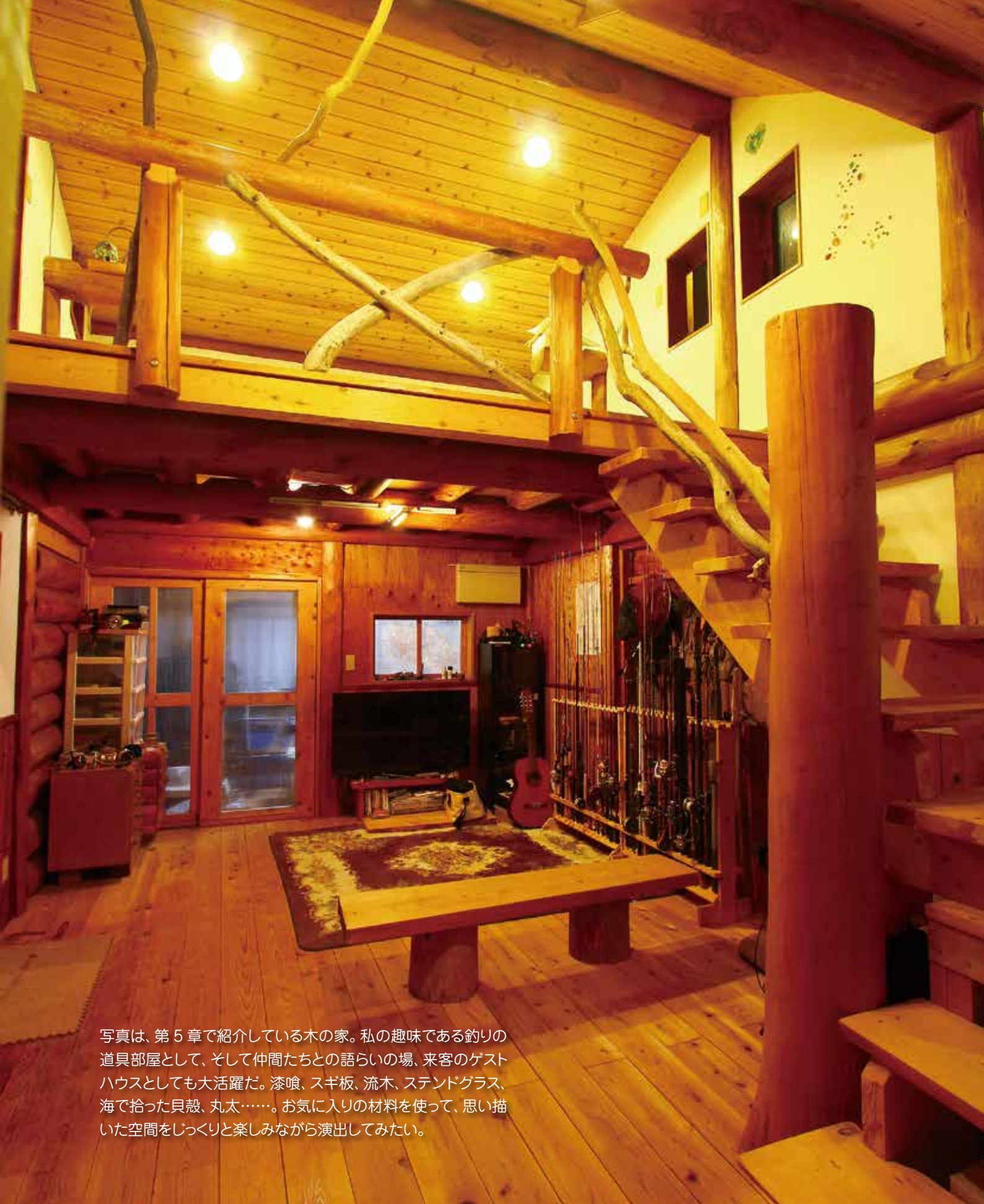
セルフビルドだからこそこの 「小屋暮らし」を遊んでみたい……

小屋の本体が完成したら、あとはじっくりと仕上げの作業を楽しんでみよう。
趣味を満喫したり、こだわりの料理を楽しんだり、お気に入りの音楽や映画を鑑賞したり、
自作の薪ストーブの炎を眺めながら、ゆったりした時間を過ごす小屋……。
自分で作れば、どんな仕上がりにするのも自由自在。
それがセルフビルドだからこその特権であり、大きな魅力なのだ。

趣味やくつろぎの空間を演出しよう！

小屋をセルフビルドする目的は、何でもOK。でも、せっかく自分で作るなら、思う存分に遊んでみてはいかがだろう。仕上げの作業は建物の強度を左右しないから、どんな風に仕上げてても誰も文句を言わない（笑）。たとえ小さくても、自分たちで作った建物は最高に居心地のよい空間をもたらしてくれるだろう。





写真は、第5章で紹介している木の家。私の趣味である釣りの道具部屋として、そして仲間たちとの語らいの場、来客のゲストハウスとしても大活躍だ。漆喰、スギ板、流木、ステンドグラス、海で拾った貝殻、丸太……。お気に入りの材料を使って、思い描いた空間をじっくりと楽しみながら演出してみたい。

はじめに……「小屋」だから楽しめる、持続可能なセルフビルド

「休日、仲間たちと気軽に集まれる小屋が欲しいなあ」
「思いっきり遊べるガレージを自分で作ってみたい！」
「子供の頃に憧れてた、秘密基地みたいなのがいいなあ〜」
「露天風呂のある小屋が欲しい！」
「車はいらないけど、小屋はあるといいかな……」
「いっそのこと、自分の家も手作りしちゃおうか！」

*

近年、小屋作りに興味を持つ人が増えている。ウチの近所でも、私にとっては子供のような年代の若者たちが、私が作った小屋を見学に来ていたり、彼ら彼女たちと一緒に実際の小屋作りも体験してきた。こうした若者たちに共通しているのは、セルフビルドをより「気軽に」楽しもうというスタンスだ。

私の若い頃（1990年前後）にもセルフビルドのブームが起こったことがあるのだが、当時は自分で家を建てるというのは「人生を賭ける」みたいなストイックな雰囲気があって、本来は楽しいはずのセルフビルドが何だか苦行のように感じている人もいた……。

仕事柄、そういった人たちを少なからず見てきたこともあって、私自身はかなり気楽なスタイルでセルフビルドを楽しんでいる。しかし、気楽とはいえども、そこから得られる感動は計り知れないほど大きなものがある。建物のセルフビルドというのは非日常感が満載で、実際に若者たちと小屋作りをしていると、初めて電動工具を使う体験だけでも「人生変わったぜ！」というリアクションをする子も多いのだ。まさに、セルフビルドを通じて「生きる喜び」を再発見したかのように……。

これからのセルフビルドは決して特別ではない、誰もが気軽に参加できる「小屋作り」が主流になっていくこ

とだろう。そして、小屋のセルフビルドを一度でも体験してしまうと、それが中毒になってしまうほどの魅力にあふれていることを実感するはずだ。

本書は、そんなスタイルで小屋作りを楽しみたい皆さんに向けて、私のこれまでの体験や取材で集めたノウハウを含め、知識ゼロからでも理解できる内容を凝縮して一冊にまとめたものだ。基本的にはセルフビルドの実践を楽しみながら、さまざまな工程を紹介する構成にしているので、自分の好みや予算などを考慮しつつ、それぞれの章で紹介しているノウハウの「いいとこ取り」をしていただければと思う。たとえば、第5章で紹介した木の家で使っている丸太を角材で代用するとか、第3章の掘っ立て小屋に床や内壁を仕上げてみるのもおもしろい。もちろん、プランニングも自由自在。自分なりにアレンジして、世界にひとつだけの素敵な小屋を実現してみていただきたい。

最初は多少の失敗もあるかも知れないが、そんなのは全然気にしなくていい。ウチで作った小屋も、仲間が打ち損じたビスが飛び出ていたり、未完成のままにしている部分も少なくないが、いまだに誰も気がつかない(笑)。仮に完成した時点では60点ぐらいの出来映えだとしても、その後の「持続的な」創意工夫を凝らすことで将来的には100点、あるいはそれ以上にもなっていくことが小屋作りだからこそその尽きない魅力なのである……。

一度でもいい。小さな家でもいい。セルフビルドを経験してみれば、何十年経っても心に響く最高の思い出になることは間違いない。

思い立ったら吉日。やるなら、いましかないのだ！

西野弘章

